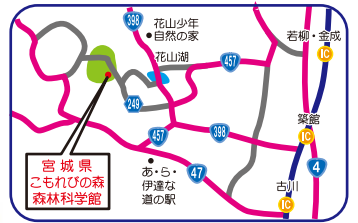


こもれびの森通信 6 2014 月号



発行 宮城県こもれびの森 森林科学館
〒987-2512 宮城県栗原市花山草木沢角間 10-7

TEL&FAX 0228-56-2330
http://mifi.main.jp/komorebi.htm

イベント報告

こもれびの森ウッドランドクラブ 山野草観察と石窯でピザを焼いてみよう



5月25日、こもれびの森に初夏の訪れを告げる「アカショウビン」「オオルリ」のさえずりの中、ウッドランドクラブ「山野草観察とピザを焼いてみよう」のイベントが行われました。

こもれびの道の自然観察は講師連の山野草に関する興味深い解説を聞きながら楽しい散策です。

一方、森林科学館自慢のピザ窯では野菜等をトッピングした野趣満天のピザを焼きました。香ばしい匂いが周囲に立ち込め、青空レストランは終日大歓声に包まれていました。(小山)

5月8日、高清水幼稚園のみんなが楽しい遠足で来館しました。クラフトを楽しんだ後園内の探検も楽しみました。発見山盛り！27日には花山幼稚園のみんなが、今年もカブト虫の幼虫を迎えにきてくれました。科学館からお嫁入りです。これからは幼稚園のみんなが育ててくれます。ヨロシク！6月2日には一迫小学校4年生が来館しました。館内案内の後、森林のウソ・ホントクイズを楽しみました。(小林)



こもれびの森の かわいいことりたち

“大発見！！”

クマタカの若鳥かも・・・

こもれびの森サポーターで
専属ことりカメラマン(?)の
大友さんのコーナーです

今年は上空を舞うクマタカを見ることが多いです。激しい雷雨の後、県道沿いのヒノキの木の下にクマタカの若鳥らしき鳥を見つけました。緊急避難した場所が悪かったようで、カケスに何度もモビング（偽攻撃）されついに逃げ出しました。もし若鳥なら近くで繁殖したことになります。私には大発見です。

溪流沿いの木々でオオルリがさえずっています。こもれびの森入り口付近の桜の木によくとまります。近くを通ったら車を止めて窓を開けると見られるかもしれません。



5月25日の観察会で炊事場の屋根裏にヤマガラスのヒナの声を聞いた人がいました。親鳥が餌をくわえて静かになるのを待っていました。2日後までに無事巣立ったようです。(大友)

ミツケ！こもれびの森

こもれびの森でつけたよ 「ブナの赤ちゃん」

執筆者：山のことなら何でもプロ級、サポーターの(は)さん

今年のこもれびの森は、ブナの芽吹きがすごいです。ブナは5年に一度しか実をつけないといわれます。沢山の芽吹きは、昨年が豊作だった証。ブナの実は山の動物たちの格好のエサとなり動物たちのお腹を満たしてくれたはず。ブナは動物やキノコを育む木です。何よりも森のシンボルの存在であり、ブナ林は巨大なダムのご役割を担っている大切な木です。

こもれびの道には、可愛いブナの赤ちゃんがみなさんの訪れを待っていますよ。(は)



本葉が出てきましたよ

まめちしきコーナー 植物にもある～「性転換」～

マムシグサ



同じ個体が、環境や条件により性を変えることを「性転換」といいます。動物の世界では、かなりの例がありますが、植物では「マムシグサ」が性を変える植物です。「マムシグサ」は、茎の模様や仏炎苞の形からマムシを連想させるチョット不気味な植物です。雌雄異株の多年草で、全体にシュウ酸カルシウムを含む有毒植物です。そして、同一の株が「メス」になったり、「オス」になったりもします。成長がよくサイズが大きくなると「お株」→「め株」

へと変わり、逆に生育が悪くサイズが小さくなると「め株」→「お株」になります。

サイズが大きくなると「め株」に性転換するのは、種子をつけるためには栄養と体力が必要だからと考えられています。ある研究では、茎（偽茎）の太さや、球茎のサイズが関係するとの報告があります。

人間界では、こんなことがなくてホットしているのは、「お株」の自分だけでしょうか???(千葉)

雑記

少し遅くなりましたが、こもれびの森森林科学館の職員を紹介します。写真左上から元気いっぱい、気配りいっぱい小山さん、紅一点パワーあふれる小林さん、森林科学館大好き山本、ピオトープと水生昆虫なら及川さん、そして左下冷静沈着な編集長（こもれびの森通信）千葉さんの5名の職員で皆様のご来館をお待ちしています。(山本)

